

しょくいん
職員リレーエッセイ

『 コロナ禍での生活 』

つるさと せいかつしえんいん とよおか みか
ニコニコハウス 鶴里 生活支援員 豊岡 美佳

ことし がつ しんがた えいきょう がっこう やす じたい お せいかつ ちが
今年の3月、新型コロナウイルスの影響で学校が休みとなる事態が起こり、これまでの生活と大きく違い
で やす はじ やす よろこ ことども じかん
が出てきた。休みになり、初めのうちは休みであることに喜んでいただけの子供たちではあったが、時間
が過ぎていくうちに、外出できないことに対するストレスが出始める。自分たちの行く場所。行き
す がいしゅつ たい けいじ じぶん い ぼしよ い
たい場所が制限される事。初めは、大勢集まる場所へ行けない事は理解して我慢出来ていた
が、次第に「行きたい」と言う事が多くなる。

こうえん ともだち あそ きかい へ こうえん い こと すく いちにちじゅういえ なか す こと
公園で友達と遊ぶ機会も減り、公園へ行く事も少なくなり、一日中家の中で過ごす事で、する
こと
事がなくなってしまい。「暇な時間」となるようだ。昼寝をしたり、自主勉をしたり、ゲームをしたり・・・
おな く かえ ひ び つづ
同じことの繰り返しの日々が続く。

しんねんど おや ことども がっこう はじ おも すぐ やす れんらく はい
新年度。親も、子供も「やっと、学校が始まる。」と思った。しかし直ぐに休みの連絡が入る。
に どめ やす さき み やす がっこう かだい だ なか せいかつ べんきょう
二度目の休みは、先が見えない休みとなる。学校からの課題が出される中の生活。勉強は、
じぶんじしん おこな ほんにん なか いろいろかつとう かん げつかん
自分自身で行わなければならない、本人たちの中でも色々葛藤があったように感じた。2か月間の
やす お さいかい おや ことども なか ふくざつ よう べんきょう ちから
休みを終え、いざ再開。親は「ほっと」するも、子供たちの中では複雑な様であった。勉強の力
は、この段階で大きく差が出ていることは間違いないであろうが、そこを本人たちがどの様に乗り越
え て行くかが大きなカギとなると、私は感じた。

たの ぎょうじ な えんき へんこう ことども かな できごと おお
楽しみにしていた行事が無くなったり、延期・変更と、子供たちにしてみれば悲しい出来事も多く
あった事であろう。

そんな「ステイホーム」の中で、子供たちが何かを作る機会が増えた。私自身がフルタイムでの
しごと はじ ねん た ねん ことども せいちょう おお かん じすい かせ
仕事を始めて3年経つ。この3年で子供たちの成長を大きく感じたのは、「自炊」である。帰ると
しょくじ でき こと みば きも ははおや うれ かが
食事が出来ている事もあり、見栄えはイマイチであるが、その気持ちが母親として嬉しい限りで、
せいちょう かん こと でき しゆんかん
成長を感じる事が出来る瞬間である。

つぎ せわにん よしはらこうき つな
次は、ホーム世話人の吉原光輝さんへ繋がります。